登校拒否・不登校問題

第25回全国のつどいin京都
実行委員会ニュース No.6

第25 回登校拒否・不登校問題全国のつどい 実行委員会事務局発行　2024年1月14日

【事務局連絡先】　　メール　kyoto.tsudoi.2023@gmail.com

〒607－8033　京都市山科区四ノ宮芝畑町１－９　林方
FAX　　０７５－５９４－５８４１
ホームページ：https://zenkokuren.jp/tsudoi

出会えてよかった！ 語り合えてよかった！

ともに「つどい」をつくり上げた全国のみなさまへ

感謝をこめて　　～第６回まとめの実行委員会の報告～

2023年10月7日8日、「ガレリアかめおか」には、全国から522人（のべ830人）が集まりました。長崎佐世保でのつどいから、コロナ禍を越えて実に４年ぶりのことでした。

つどいの余韻がさめやらぬ中、12月３日のまとめの実行委員会には全国から４５人もの方が参加してくださいました。

この実行委員会では、つどいの感想を語り合い、新しい形で迎えたつどいについてふりかえりを行いました。この実行委員会ニュースの２ページと３ページには、事務局から提案した総括案に、実行委員会で出た意見を反映したものを載せています。分科会のまとめ冊子が発送されるのは２月になりますが、あわせてお読みくださるようお願いいたします。

実行委員長・春日井敏之さん（立命館大学大学院教授）のあいさつより

みなさん、本当に長い間、つどいの成功のために一人ひとりの時間をけずりながらご尽力いただいたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。10 月のつどいからもうだいぶ経ちますが、自分の中に心地の良い余韻が残っています。

全国で不登校 30 万人が報じられる中、この「全国のつどい」には社会的にもずいぶん大きな反響がありました。たとえば日本教育新聞。教育委員会や教育関係者が読者となっている新聞なのですが２週続けてこの「全国のつどい」を特集し、社説にまでとりあげてくれました。私の基礎講座を２時間聴いていただいた記者が、高垣さんの記念講演のポイントと基礎講座のポイントをまとめて発信してくれたんです。このように、「全国のつどい」に対する反響の大きさを感じています。

ところが、その全国のつどいが終わった直後に、東近江市の市長のとんでもない発言が飛び出しました。その発言は、「不登校の大半は親の責任」「善良な市民は、本当に嫌がる子どもを無理して学校という枠組みの中に押し込んででも、義務教育を受けさせようとしている」といったものでした。新聞やテレビの取材を受けて私は、「その発言自体が時代錯誤で愕然とする。子どもの教育を受ける権利を理解されていない」というコメントを出しました。

滋賀県の関係者のみなさんは、「いや、これで不登校に対する関心がグッと高まって、いろんな取り組みや運動が進む」と言っておられます。私も同感です。「全国のつどい」の余韻を噛みしめながら、しかし問題状況、課題は依然としてそこにある、ということを共有させていただきたいと思います。私たちが「全国のつどい」を始めて 25 回蓄積してきた中で大切にしてきたこと、それは「子ども、青年とともに生きる」ということだと思います。それって具体的にどういうことなのか。もう一回自分に問い直し、お互いに問い合いながら、取り組みにつなげていきたいと思うのです。

ひとつ報告がございます。10 月 7 日に記念講演会をしていただいた高垣さんの近況です。奥さまとも連絡を取り合って、これだけはよろしくお伝えくださいとのことでした。実は、11 月 21 日に、京大病院に再入院されました。ご家族以外面会禁止です。そういう状況だということをどうぞよろしくお伝えくださいとのことでした。

（なおその後、高垣忠一郎さんは、2024 年１月３日ご家族に見守られて静かに息をひきとられました。満７９歳。
ご葬儀はご家族によって既に執り行われました。香典などは辞退され、弔問などもご遠慮申し上げますとのことでした。）

「第 25 回全国のつどい in 京都」をふりかえって

2023. 12.3

コロナ禍による中断を経て４年ぶりに開催した「第 25 回全国のつどい in 京都」は、すべて対面で行いました。人と人とが直に出会い、同じときと場所と体験を共有し、そこに生まれたかけがえのないものを味わうことができました。

① **参加者**　実人数は 522 人（のべ 830 人）。くわしい内訳は別表。開催地の京都からは 229 人。家族 201 人教職員 110 人と教職員の参加が比較的に多かったと感じる。立場・属性については（全国連で）話し合っていく必要がある。

② **会　場**　亀岡市の公共施設「ガレリアかめおか」は、まわりが緑豊かで広々と開放感があり、自由に休憩できるスペースや子どもたちがのびのび動ける広さもあった。「つどい」要項未定の一年前から、必要と思われる全室を前納金無しで予約できたことはとてもありがたく、実行委員会を重ねながら具体的な内容を安心して計画することができた。何度も下見や相談に出向き、担当職員さんには当日まで親切に対応してもらえた。

③ **分科会場**　20～30 人用の部屋のほかに大広間と大ホールを活用することで必要数を確保した。分科会･分散会は、独立していることが望ましいが小部屋は不足していた。９月の実行委員会での要望や意見を受けて大ホールの椅子移動を必要数だけにとどめ、２つの分科会を離れた位置に設定した。大ホールや大広間では、各グループが落ち着いて話し合えるよう、ホワイトボードやパーテーションを多数準備し活用された。

④ **受付・案内係**　受付は、一日目前半が最も忙しく 20 人以上のチーム全員で当たったが、その後は場所を縮小し、核となる数名の専任担当者以外は分科会等に交代で参加。専任で２日間受付にいた人どうし交流を深め、速報で分科会等の様子を知ることができた。前日準備の時間帯に受付専任者・案内係・会計の合同打合せを綿密に行ったことがとても役に立った。当日は順調で余裕をもった応対をすることができた。手作り看板やコスモスも好評。

⑤ **総合案内・第２受付**　総合案内・玄関の案内係については「つどい」のことをよく知っている人に担当してもらったことがよかった。第２受付は「つどい本部」がホール奥で不便なため本部の出張所として設置した。様々な用事に対応しやすく全体の様子が把握しやすくてよかった。

⑥ **当日申し込みと会計**　当日申し込みは１日目 109 人２日目 31 人合計 140 人。計算や事務処理に１日目後半から小部屋を使用。会計は、参加費を例年より 500 円下げたが 500 人以上の参加者があったことと、様々な協力者のおかげで出費がおさえられたことにより採算が取れた。節約で大きかったのは手弁当での活動、実行委員会会場使用料、日常的な印刷料金、速報用印刷機リース代が発生しなかったこと等。多くの個人、団体、法人、事業所などから協賛金・助成金が寄せられた。

⑦ **救護・おやすみどころ**　事前に担当者と事務局が必要な打ち合わせをした。元養護教諭が２日間在留してくれ、看護職などの協力も得て、和室が居心地の良い場となった。利用者は子どもから大人まで数名。重症の訴え無し。準備物は簡易救急セット、保冷バッグ、血圧計、飲み水、タオル、救急連絡先など。

⑧ **手話通訳者の件**　手話通訳が必要だという方から参加申し込みがあり、亀岡市に手話通訳を要請したところ、亀岡市民以外は通例主催者負担になるとのことだった。亀岡市の担当や京都府内の聴言センターに相談し、本人ともメールで連絡をとりあったところ、本人が在住市に掛け合ってくれて公的支援が受けられることになった。その後亀岡市からも手話通訳利用者の参加があり、通訳者の派遣は京都聴言センターが派遣し費用は両市が負担。事務局に求められたのは、通訳に必要な資料を事前に送ること、会場設営や当日の段取り等であった。時間をかけてのやり取りは、事務局にとって労力以上の学びがあった。合理的配慮について今後も学び、生かしていきたい。

⑨ **後援・協賛、マスコミ関係**　当日配布の「しおり」に、後援・協賛・協力者の団体や個人を紹介掲載した。新聞５紙が取材し報道された。（京都新聞・しんぶん赤旗・京都民報・日本教育新聞・事前に毎日新聞）

⑩ **ギャラリー・ご自由にコーナー**　ギャラリーの作品は、持ち込み・持ち帰りを条件として事前申し込みをしてもらった。ご自由にコーナーには、全国連会員以外の団体はお断りした。

⑪ **はじめのつどい**　司会は、親と若手教職員。マリンバ演奏は 15 分間５曲のプログラムに加えて開会前 30 分間静かな BGM を演奏して、参加者の気持ちを和ませてくれたと大好評だった。来賓あいさつの全教副委員長は２日間全日程に参加された。高垣さんは、全国連絡会世話人代表として最後となる「歓迎のあいさつ」をされた。

⑫ **記念講演**　本当の自己肯定感とは…高垣さんのお話が、初めて聴いた人にもそうでない人にもしっかりと受けとめられたことが多くの感想文から伝わった。急遽行われた高垣さんと春日井さんの対談も好評だった。

⑬ **地元団体や行政の協力・「親の会」・亀岡福祉会・きょうされん・退教口丹支部・教職員組合・新婦人**
地元「親の会」のメンバーがつながりを生かして各方面へとはたらきかけ、様々な団体や行政が動いてくれた。亀岡福祉会は、所有するバスで「つどい」参加者のためにボランティア運行をしてくれた。きょうされん事業所が会場ロビーでコーヒーやスィーツを販売。亀岡教組は印刷・受付の協力、新婦人は駅改札での案内、退教は亀岡駅前でバス乗車の案内や道案内。行政は、後援のほか市広報誌への記事掲載や市内全小中学校へのチラシ配布、当日は管理職を含む教職員や行政、社協職員の参加が得られた。

⑭ **書　籍**　かもがわ出版から１名、全国連から３名で担当。全国連の「親たちのあゆみ」はコロナ禍の中で作られて普及されたが「全国のつどい」での販売は今回が初めてだった。２日目「あゆみ」が 20 冊売れた。

⑮ **速　報**　2 日間で 10 号発行された。地元「わかくさねっと」の協力で、団体登録されている市民活動推進センターの印刷機を使用させてもらうことができた。「本部」としていた奥の控室は速報係の作業場所として役立った。

⑯ **分科会・基礎講座・ひろば**　「参加者に依拠して」の原則を大切に、どの分科会でも世話人と参加者が協力して安心して語れる場をつくった。感想文からは充実した話し合いが行われたことが読み取れる。基礎講座にも多数の参加者があり今回２日目の 10 時からとしたことはよかった。分科会等世話人が顔合わせをして話し合う時間を実行委員会の中で２回、当日もう１回作ったが、やりとりがやや足りなかったため、新しい分科会連絡係は苦労した。LINE グループを作ったり前泊可能なメンバーで集まって話し合ったことがよかったとの声も聞いている。

⑰ **実行委員会・事務局**　実行委員会は、３月に始めて事前に５回、立命館朱雀キャンパスでお世話になり、少人数ではあるが ZOOM 参加も順調に進められた。その間に事務局会議を 16 回と拡大事務局会議。その他無数の打ち合わせ。少数高齢で出発した事務局だったが、８月下旬から若い親たちと京教組書記局からの積極的なかかわりを得てパワーアップ。良好な協力関係で進めることができた。

⑱ **要項づくり** A4 サイズ４ページで作成。主催団体として全国連の紹介を表紙のページに移動し、かなりのスペースを占めていた名義後援の名称を大幅に減らした。実行委員会でも多くの意見が出てみんなで練り上げた実感がある。

⑲ **新しい申し込み方法について**インターネットを使って QR コードから申し込める方法を採り入れた。この方法で申し込んだ人には G の受付番号を返信。手書きで申し込んだ人には T の受付番号を返信。G が 75%　T が 25%　入金や事後の問い合わせその他の対応を G と T の担当者が行い分担できた。名簿整理もやりやすく、良かった。

⑳ **チラシ作成と配布について**　カラーチラシを 15,000 枚注文した。府内を中心に広く配布。行政と教組両方のルートで学校に届けられた。公共施設への配架や手渡しで広げた。全国連ニュースに同封したりホームページに掲載したり、全国にも広がった。HP からダウンロードしたデータを独自に印刷して配布した県も複数あった。

㉑ **昼食弁当**　今回分科会打ち合わせと食べることを別にしたのはよかった。会場内で弁当を取り仕切る役目があいまいだったが、分科会と連動して次のように整理してみた。「１日目の弁当は各自で」という意見もあった。

１日目軽食弁当　事前に分科会連絡係が注文を取る➡分科会打ち合わせ会場入り口で集金しながら渡す

２日目食券弁当　参加申し込み時に申し込む➡食券が送られてくる➡分科会会場で食券を集め本部に数を連絡する➡分科会ごとに指定場所へ取りに行く　＊取り扱う弁当の食材を知らせるなどアレルギー対策が必要だということがわかった

㉒ **おわりのつどいについて**　司会は親２人。３人の感想発表。実行委員長のあいさつ。事務局長簡単な報告。歌「希望つむいで」をみんなで歌った。

㉓ **その他**

- 大事にしようとこだわったこと―参加者みんなが安全に安心していられるようにする。
- そのために①コロナ対策を常に心がけた。②録音・録画・撮影。SNS 投稿や拡散をお断りした。
- 前日準備は、袋詰め作業のほかに、必要な係の打ち合わせの場に使われたのがよかった。
- 宿舎での交流や大交流会ができず、宿舎や食事についても各自で決めてもらうやり方であったが、「つどい」をよく知る全国連のメンバーが、一人で参加した人でもひとりぼっちにならないよう、見えないところで数々のフォローをしてくれた。
- 10 月開催は、体への負荷が少なくて参加しやすかった。

＊「つどい」に寄せられたみなさんの心遣いやご協力に心から感謝して、次回へと繋いでいきたいと思います。

参加者の感想（たくさんの感想を頂きました。一部を掲載いたします）

初めて第１回実行委員会に参加した時から、回を重ねるたびに顔を知っている方が増え「こんにちは」と言える関係があるのがすごくうれしかったです。一人じゃないんだと改めて感じました。これからもつながり、大事にしていきます。ありがとうございました。

今日の会もまた楽しい集いでありました。
これで、この実行委員会の集いが終わってしまうことが寂しいです。またかかわっていきたいので、よろしくお願いします。

全国のつどいから早２か月。あの時に感じた温かい気持ちは今も続いています。今日の実行委員会に参加させていただいているうちに、これから全国のつどいが始まるかのような勢いを感じました。せっかくお出逢いできたみなさんとのつながりを大切に、これからもつどいに参加していきたいと思います。貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。
皆さん、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

全国のつどいも実行委員会もお疲れ様でした。たくさんの方々のご協力で成り立っていたことがわかり感動しました。根底には、「辛さを仲間と分かち合おう、そして乗り越えよう」という思いがあったのかなと感じました。
私はここでたくさんのことを学びました。貴重な機会をありがとうございました。
お茶とお菓子、ごちそうさまでした。普段から労りの心をもって過ごそうと思います。

・第25回の開催、本当によかったです。京都のみなさん、全国のみなさんお疲れさまでした。
・分科会では統合失調症をはじめ、交流が深められたと思います。
・若い先生（中学校）からの悩み（生徒への援助）に参考意見や助言がたくさん出ました。希望が見えます。

とにかく対面で「全国のつどい」ができて本当によかったです！
京都のみなさん、本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。また来年どこかでお会いできますように！

初めての参加でしたが、何年もお付き合いしているような雰囲気でとても良かったです。亀岡のつながりも大切にしたいと思います。

現地亀岡開催で大変うれしかったのですが、私自身スイスイと動けない状態で他の方々に大きなお世話になりました。大変うれしく思いました。
分科会は教員の古手として「学校とのつながり」に参加。多くの人の発言があり、うれしかったし、よかった。しかし私自身難聴がすすんでいるため、しっかり聞き取れないところがあり、隣の人に確かめさてせもらったりしての参加でした。

45名全員発言。いつものことながら「全国のつどい」の感想聞けてよかった。つどいの成功に、この実行委員会の全員発言、自己紹介が力になっていることが改めて確認された。１人１人の思いが皆の中で語られる中で不登校問題で悩む親と関係者が“つながる”のではないか。
不登校の激増は日本の教育、学校のあり方を問いかけている。

今年が初めての参加でしたので、“沼にハマる”という意味がやっと少し見えてきました。分科会では当日の雰囲気がとても暖かく感じられましたが事後にこうして振り返ることで、それが今までの歴史の中で作りあげられてきたこと、加えて今年ならではの面もあったこと、よくわかりました。事務局の皆様、本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。